

全国シニア柔道選手権 2009-2010 に参加して

平成 21 年 12 月 23 日

井上 大智

(H21 年度 1 次隊)

今回、「全国シニア柔道選手権 (Senior National Judo Championship 2009-10)」の大会視察のためにハリドワールへ行って参りました。これまでの活動でシニア選手に触れる機会はほとんどなく、どのような柔道をするのか全く知りませんでした。この全国大会は、各州を勝ち抜いたシニア選手が集うもので、インドの柔道のレベルを知るいい機会だと考え視察を希望しました。またこの大会でジュニア期に学ぶべき技術・礼法等を考察し、今後ジュニア選手に対する指導の参考にしたいと考えていました。

率直な感想として「思ったよりもやるな」と感じました。私はデリーの全国ジュニア大会予選等を今まで見てきました。中には全国ジュニア大会でメダルを獲得する選手もいます。自分の中で、インドのシニア選手はだいたいこのくらいだろうと、だいたいの予想はつけていましたが、完全に私の予想を超えてきました。パワー柔道ではなく技の応酬を繰り広げる試合が多く、見ていて非常に面白かったです。特にインド東部の選手たち (マニプール州・ミゾラム州) は柔道スタイルが日本に近く、この大会でも目立って活躍していました。

改善点として挙げるのは3点—「組み手」・「寝技」・「スタミナ」です。この3つに関してはジュニア期に習得すべきことがらと思います。特に組み手に関しては、まず握り方から学習し直す必要があると感じました。柔道において、組み手は勝敗を左右します。いかに早く自分に有利な組み手になるかが、技の出につながってきます。相手に十分な組み手とさせないことで、相手の技を防ぐことが出来ます。ジュニア期より基本を学び、身体で覚えなければ、試合で使うことはできません。

今回、この試合を視察に行き、本当に良かったと思っています。私の活動の目標とするところが、少しだけ固まってきました。今まではデリーのほんの一部の子どもとしか関わることがなく、インド全体としてのレベルを知るには、不十分過ぎました。私の活動は地域に柔道を広めることが主体ですが、やはり子どもたちには勝つ喜びを味わってほしいと考えています。しかし、小手先の技術だけを教えても、デリーでは通用しても全国では通用しないことがよくわかりました。子どもたちにはインドや更にその上を目指すことが出来る選手に育ってほしいです。そのためにも日本で学んだ柔道を、少しでも多く子どもたちに伝えなければと思っています。

また、長瀬隊員と共に試合視察を行えたことも、この視察が有意義になった要因として大きいです。2人で試合を見ながらの意見交換は大変良かったです。私の知っていること、彼の知っていることを伝え合い、試合後に実際に2人で組んで、効果的かどうかを練習しながら検討したりもしました。指導の幅が広がるいい機会になったと思います。

これは実現可能かどうか分かりませんが、全国大会後に2人で柔道教室のようなものを行えたらいいなと思いました。せっかく全国からたくさんの選手たちが集まっているので、この機会を有効に使うことが出来たらと思います。しかし、試合場を試合後次の日まで利用することや、選手たちの宿泊を1日延ばさなければいけないことを考えると、少々難しいように感じます。このような案を柔道フェデレーションに、まずは出してみようと思います。

今大会の視察は、本当に行って良かったです。感じたこと、考えたことを今後の活動に生かしていきたいと思っています。